

大竹市立中学校用教科用図書採択のための
調査研究について（答申）

大竹市教科用図書選定委員会

令和2年8月6日

令和3年度使用教科用図書調査研究の観点について

1. 教科用図書調査研究の観点

(1) 基礎・基本の定着

教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る上で、内容の精選及び創意工夫がなされているか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れ、児童生徒の興味関心を生かし、自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫がなされているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

学習指導を効果的にすすめる上で、適切な内容の構成・配列・分量となっているか。

(4) 内容の表現・表記

さし絵・地図・図表などの資料等が有効に使われるよう配慮されているか。

(5) 言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動の充実や、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整えることに配慮されているか。

《参 考》

中学校教科用図書の種目

全種目

2. 調査研究・報告にあたっての留意点

(1) 全発行者の教科用図書について調査研究し、報告する。

(2) 1発行者の教科用図書について、必ず複数の調査員で調査研究をする。

(3) 教科用図書調査研究の観点に基づく各教科・各種目別の具体的な調査研究の視点については、各調査員(会)において定める。

(4) 報告書及び要約の作成については、発行者の長所だけでなく、課題と思われる点についても報告すること。

大竹市教科用図書選定委員会答申整理表

※「発行者」の欄は、教科書目録により略称を記入。

種目	発行者	選定委員会意見（要約）
国語	東書	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入に生徒に持たせる工夫があり、課題設定をしやすい。単元で付きたい力が明確に示されている。 作品例が学習の手順それぞれに示されていて、具体的で分かりやすい。 豊富な種類の図表を扱っており、図表の役割を問う課題も設定されているので、図表の効果や特徴について考えることができ、言語活動に生かすことが可能である。 文法は説明と問いがセットになっており、授業の構成がしやすい。また、細かな使い分けが特集されており、紛らわしい文法を押さえる場合は有効である。
書写	東書	<ul style="list-style-type: none"> 「見つけよう→確かめよう→生かそう」という三段階で学習過程が示されており、それぞれの過程でどのような学習をするのかが明確で、活動の見通しが立てやすい。 手本が平明な文字で示されており、中心線や補助線があり、学びやすい手本である。28の教材が動画で書き方を確認でき、いろいろな活用の仕方が考えられる。 学ぶべきポイントが「書写のかぎ」という形で示されていて、学習者にとって付きたい力が明確である。
社会 (地理的分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を解決するために、項の学習の最後（見開き2ページの下部）に取り組む課題が設定されており、「チェック」で基礎的・基本的な内容を確認したのち、「トライ」で発展的な学習ができるよう工夫されている。（p4, 9, 11, 13, 17など） 編・章の学習を貫く「探究課題」を設定し、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという3つの流れで構成し、クイズ作りなど楽しみながら生徒が自主学習できる探究的な学習活動も仕組んでいる。（p4, 5, 19, 31など） 「日本の諸地域」の学習の進め方について、地域の特徴をとらえる視点がカテゴリー別に示され、7地方の学ぶ視点を示す一覧表があるため、分かりやすい。（p184） 「みんなでチャレンジ」のコーナーでは、他者との協働学習から学ぶことができるよう課題が設定（p18-19, 86-87など）されており、各章末での「〇〇の学習をまとめよう」や「探究課題を解決しよう」のコーナーで、調べたり考えたりしたことを自分の言葉でまとめる学習が設定されている。 どの章にもブレなく指導できるよう学習課題が設定されており、社会科における課題発見解決学習が進めやすい作りになっている。
社会 (歴史的分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> 各章・各節の学習を貫く「探究課題」を詳細かつ明確に示し、さらに1単位時間の学習の「学習課題」が設定され、章の終わりには「探究のステップ」において、まとめる手順も示されている。 「地域の歴史を調べよう」の中で、地域の復興と平和への思いの視点から、被爆地広島についての調査を紹介している。 地理的分野と同様に、学習課題がしっかり立てられており、生徒にとって課題発見解決学習が進めやすい作りになっている。

種 目	発 行 者	選定委員会意見（要約）
社 会 (公民的分野)	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・「効率と公正」のような公民的な見方・考え方を働かせ考察させる課題（例：p164）が設定されている。また、具体的に働かせる見方・考え方が示されている。 ・学習指導要領でも「見方・考え方を働かせる」ことが重要視されており、単に知識を身に着けるのではなく、思考したり判断したり表現したりさせるための工夫がある。 ・地理や歴史でも取り上げたように学習課題が明確に示されていて、課題発見解決学習に取り組みやすい構成である。
地 図	帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ・色が鮮明で地図が分かりやすい。（東p15-16, 帝p9-10を比較） ・地図の表記（色、活字、境界線など）が工夫されており、読み取りやすい。（例えば帝p1-3と東p1-3を比較） ・地図本来の機能を兼ね備えていて、資料として活用しやすい。
数 学	学 図	<ul style="list-style-type: none"> ・「Q」の隣にポイントとなる見方・考え方が明示しており、以後の学習で大切なポイントを抑えることのできる工夫がある。 ・小数や分数を含む方程式では解答例の枠内に吹き出しを設けて手順を明記し、理解を助けている。 ・「数学的活動のページ」では、課題発見から課題解決までの具体的な活動が示されており、モデルの考え方とともに自分の考えも説明し伝え合う活動が設定されている。また、すべての「Q」に、生徒のつぶやきや疑問が吹き出しの形で示され、話し合い活動を意識した構成になっている。 ・練習問題の数が多いことも特徴であり、基礎・基本の力を身に付けやすい構成である。
理 科	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・探究のフローチャートで探究の過程が明確化されており、「課題に対する自分の考えは?」「調べ方を考えよう」「考察しよう」など探究の過程に直結した言語活動が配置されている。 ・各ページ左下に探究のどの過程を学習しているかが図式化して示され、生徒に学習過程を意識させる工夫がある。 ・写真とモデル図の構造を工夫し、粒子概念を理解しやすい工夫がされている。 ・他者と比較して、安全に関する指導が丁寧で分かりやすい。
音 楽 (一 般)	教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・題材ごとに、大きなねらいとそのねらいに基づく具体的な学習課題が示しており、見通しをもった学びが実現できる。 ・共通事項の説明が楽譜と共に説明されており分かりやすい。 ・学習の仕方がきめ細かく、丁寧に扱われていて学びやすい。 ・全校合唱「ふるさと」は、難易度が高すぎず学びやすい。
音 楽 (器楽合奏)	教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を深めるポイントが分かりやすく提示されている。 ・各楽器がバランスよく取り上げられている。 ・ギターのダイアグラム（コード表）が、イラストで押さえる弦が分かりやすく示されている。 ・器楽演奏を学ぶ中学生にとって、学習の仕方が丁寧に示されていて学びやすい。

種 目	発 行 者	選定委員会意見（要約）
美 術	光 村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的にすっきりとした構成。地色を変えての囲んだ記事などレイアウトの工夫で見やすい。QRコードでの指示も明確で動画や参考作品、制作工程、作品解説などが見られる。 ・ 一つの題材の中で「表現」「鑑賞」を一体的に学べるような構成となっており、学習の流れが分かりやすい。 ・ 話し合いを促す記述が多く、どの題材も最初に鑑賞が入るため自然に言語活動が活発になりやすい。「話し合ってみ方や考え方を広げる」という項目がある。 ・ 生徒がねらいを明確にして学びやすい。
保健体育	学 研	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の流れの中で、身近な課題について、生徒が自ら学び、自ら考えることができるような工夫が見られる。 ・ 生徒の発達段階を踏まえた身近な問題や自他の問題が取り組めるように、学習指導要領に示された内容をもとに学年別に構成されている。 ・ 生徒が自分の生活に結び付け、切実に課題に取り組める内容になっている。
技術・家庭 (技術分野)	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンスにおいて技術を学ぶ意義、学び方について丁寧に記載されている。 ・ ガイダンスにおいて技術の見方、考え方、技術の最適化について丁寧に説明があり、技術を学ぶ本質的な意義について気づかせるよう工夫されている。 ・ 高校への学習内容につながるコンピューターの基本操作の学習が丁寧に扱われている。 ・ 技術の専門性について地域の実態を生かしながら学ぶことができる。
技術・家庭 (家庭分野)	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の課題と実践の具体例が12テーマ示してあり、学習の流れが分かりやすく提示されている。また、対話的、協働的な学習を展開するための、思考ツールの紹介や、具体的な実践例の紹介により、学びを深め、課題解決を家庭だけではなく、社会につなげていくという展開の工夫がある。(p 267～283) ・ 「高齢者の体の特徴」における「高齢者とのかかわり方」では、実際の介助の仕方を、資料の図によって理解しやすい。(p 259) ・ 包丁の持ち方、切り方、食材の切り方等が絵や写真を使って、丁寧に説明してある。また、ページの下に定規がついているので、おおよそのイメージが付きやすい。技能を身に付けやすい工夫がある。(p 58～59) ・ 日常生活へのつながりや現代社会の課題への直結など、生活に生かしやすい内容である。

種 目	発 行 者	選定委員会意見（要約）
英 語	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校からの接続は、1 学年の「Unit 1」～「Unit 5」まで続く。各「Unit」の「Enjoy Communication」では小学校で学習した重要文型が短い対話に盛り込まれてふり返りができるようになっている。小学校外国語科の教科書も「New Horizon」を使用しており、小学校で学んだ内容がスムーズに中学校に接続される。 ・ 3 学年最後の「Stage Activity」は、「Let's Have a Mini Debate」であり「主張とその理由を明確にしなが、ディベートをすることができる」が GOAL で、ディベートの手順が示してある。取り上げられている論題は、“Japan is a good country to live in.” で、3 年間の学習の総まとめとなるレベルの高い言語活動が設定されている。 ・ 文法を学ぶための視覚的支援、ステップが示されており、地域の題材もとりあげていて、読み応えのある内容が掲載されている。
道 徳	日 文	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の終わりに 2 問示され、「考えてみよう」で中心発問を、「自分に＋1（プラスワン）」で自分との関わりについて深めるための問いがある。 ・ 別冊「道徳ノート」があり、特別な教科である道徳の評価に生かしやすい。 ・ 「道徳ノート」では、「友達の意見や話し合いをメモしよう」という欄も設けられ、多面的・多角的な見方を養うことができる。 ・ 登場人物が巻頭で、写真やイラストで紹介され、教材の読解を促すための工夫がある。

中 学 校 国 語

著者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品例が学習の手順それぞれに示されていて、具体的で分かりやすい。 ・ 学びの扉につまづき例がマンガで書かれていたり、単元の初めに吹き出しで疑問点が書かれたりしており、課題設定がしやすい。 ・ 豊富な種類の図表を扱っており、図表の役割を問う課題も設定されているので、図表の効果や特徴について考えることができ、言語活動に生かすことが可能。 ・ QRコードへのアクセスで関連資料を閲覧できるというDマークが小さく、探しにくい。 ・ 漢文の読み方について学習することができるが、『白文』『訓点』などの言葉は説明されておらず、漢文の知識面については、あまり詳しくない。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標に対して「学びの道しるべ」で「内容を理解する」「読みを深める」「自分の考えを深める」と三段階で学習の進め方が丁寧に示されている。 ・ 《読み方を学ぼう》多様な文章の読解のポイントや図式化した読みについて端的にまとめられたものが全学年載せられている。 ・ 巻末に「読書の広場」として、3学年合計で100ページ程度扱っており、「小説」「古文」「随想」「講演録」など多種多様な文章に触れることができるよう工夫している。 ・ 課題設定にあたる部分の記述が少なく、主体的な課題発見・解決学習をしづらい。 ・ QRコード「読み方を学ぼう」の中に、データ量が重くアクセスしにくいものがある。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsを踏まえており、地球規模の問題解決とつながるので、課題設定しやすい。 ・ 単元ごとの読み書き問題が付属しており、生徒の自主学習へ活用できる。 ・ 他と比べて随筆作品が少ない。 ・ 単元の構成が他者とは違い、言語活動ではなく、内容的な部分での括りになっているので、活動の目的を学習者に意識させにくい。 ・ 読書活動に関する教材が、第1・3学年の単元三「みちしるべ」において紹介しているが、作業手順は書かれていない。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標に対して「学習」で「とらえる」「読み深める」「考えをもつ」と三段階で学習の進め方が丁寧に示されているので、学習の進め方は一目で分かるようになっている。 ・ 課題発見・解決学習を意識して単元が構成されている。(集める・整理する→組み立てる→表現する→振り返る) ・ 「話す・聞く」「書く」領域の学習には学習の流れの最後に「つなぐ」という項目が設定されており、日常生活、学校生活、将来とつないだ発展的な言語活動が提示されている。 ・ 各学年ともに、「思考のレッスン」と「情報整理のレッスン」の中で、情報整理や活用の方法が掲載されており、関連ページも明記され、各単元と関連つけた指導が可能である。 ・ 説明が右ページ、具体例が左ページの構成や具体例が1編のみ、具体例のポイントが簡潔すぎるなど、追加の説明が必要である。

中 学 校 書 写

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や用具の持ち方について、写真や説明が詳しい。平仮名の筆遣いについての説明も詳しく、大きくて分かりやすい。 ・「見つけよう→確かめよう→生かそう」という三段階で学習の手順が示されており、それぞれの段階で何をやるのかが明確で、活動の見通しが立てやすい。 ・「生活に広げよう」では、習得した知識・技能を生活に生かす単元になっている。 ・手本が平明な文字で示されており、中心線や補助線があり、学びやすい手本である。28の教材が動画で書き方を確認でき、いろいろな活用の仕方が考えられる。 ・「生活に広げよう」や巻末の「書写活用ブック」では、よく使われる書式が取り上げられており、様々な形式で文字を書くことができる。 ・内容は充実しているものの、盛りだくさんすぎて、どこが大切なのが分かりにくい箇所がある。資料集（便覧）のような感じを受ける。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や用具の持ち方の写真が大きく分かりやすい。基本的な点画の種類と筆使いの説明では、穂先の向きと筆圧が分かるように穂先の形が書き込まれている。 ・学習内容が順番に示されており、その教材で何を学習するのが明確になっている。 ・基礎編・本編・資料編からなり、書写の基本の学習、定着、応用という構成になっている。 ・毛筆は各教材が見開き2ページに掲載されており、朱の濃淡で筆跡や筆圧を確認できる。補充教材が12ある。 ・硬筆ではなぞったり升目の補助線を利用して書いたりできるため、字形を取ることが難しい生徒も取り組みやすい。 ・手本に中心線や筆順が示されていないため、よく確認しないと、間違った書き方をしてしまう可能性がある。 ・運筆動画の教材は、正しい姿勢と筆の使い方だけで、他はない。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆の姿勢についてのチェック項目が写真（横向き）とともに記載されており、自分でチェックできる。 ・「目標→試し書き→考えよう→生かそう→まとめ書き→振り返ろう」という学習の手順が示され、基礎基本の習得から生活での活用場面まで考えて学習させることができる。 ・手本の文字はやや細めで平明である。中心線や字形を示す補助線が手本と同じページにあり、参考にしやすい。補充教材が13ある。また、16の教材で運筆動画を見ることができる。 ・部首別に常用漢字が掲載されており、字形の似た漢字を確認したり、部首を組み合わせで掲載されていない漢字を書いたりすることができる。 ・「学習を生かして書く」課題が各学年に設定されており、書写を生活で生かす例が挙げられている。写真も大きく、見やすい。 ・硬筆の姿勢についての写真や説明がない。

光 村	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆の姿勢と構え方が写真（横と正面）とともに記載されており、チェック項目がある。 ・「考えよう・確かめよう・生かそう」という学習の流れで統一されており、分かりやすい。「考えよう」では、生徒が話し合う活動が位置づけられており、主体的に文字への理解を深めることができる。 ・切り離して使える硬筆練習帳（全 27 ページ）がついており、毛筆教材と同じ学習要素のある課題が豊富に設定されている。 ・資料として「日常に役立つ書式」が掲載されており、国語科や総合的な学習の時間と関連付けて活用することができる。 ・運筆動画や姿勢などのコンテンツが用意され、42 の教材に 2 次元コードがついている。 ・硬筆の姿勢については、鉛筆の持ち方のみで姿勢についての写真や説明がない。 ・3 学年の手本数が少ない。また、手本に中心線や補助線がないため、指導者が補足することが必要である。
--------	--

中 学 校 社 会 (地理的分野)

発行者	意 見
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を解決するために、項の学習の最後(見開き2ページの下部)に取り組む課題が設定されており、「チェック」で基礎的・基本的な内容を確認したのち、「トライ」で発展的な学習ができるよう工夫されている。(p 9, 11, 13, 17など) ・本文の文字(地の文の字体, 太字の字体)の線の太さが読みやすく, 写真やグラフ等資料の色使いが鮮明である。 ・「地理にアクセス」のコーナーを設けて, 生徒の興味・関心を喚起し, 生徒の主体的な学びを促している。(p 12 など) ・編・章の学習を貫く「探究課題」を設定し, 課題をつかむ, 課題を追究する, 課題を解決するという3つの流れで構成し, クイズ作りなど楽しみながら生徒が自主学習できる探究的な学習活動も仕組んでいる。(p 4, 5, 19, 31など) ・「世界の諸地域」では, アジア州など各州の降水量と人口密度を表す地図のすぐ下に雨温図があり, どの州も同じ配置で構成されているため, 違う地域(州)と比較するのに便利である。(p 58 など) ・「日本の諸地域」の学習の進め方について, 地域の特色をとらえる視点がカテゴリー別に示され, 7地方の学ぶ視点を示す一覧表があるため, 分かりやすい。(p 184) ・「みんなでチャレンジ」のコーナーでは, 他者との協働学習から学ぶことができるよう課題が設定されており, 各章末での「○○の学習をまとめよう」や「探究課題を解決しよう」のコーナーで, 調べたり考えたりしたことを自分の言葉でまとめる学習が設定されている。(p 18-19, 86-87など)
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の文字(地の文の字体, 太字の字体)が読みやすい文字濃度である。 ・節の中には「読み解こう」のコーナーを設け, 生徒が自主的に学習できるよう工夫されている。(p 23, 43, 71など) ・日本と同緯度, 同経度の国々の扱いがなく, その学習をしないまま時差や日本の領域の学習に入る構成になっており, 理解しづらい。 ・尾根と谷の模式図が示されていない。(p 138-139) ・気温と降水量を表す地図と雨温図が, 別ページに記載(p 94, 95)されているものがあり, 関連付けて考えにくい。「日本の諸地域」の雨温図が, 縦に配列されていたり(p 191)大ききの違う雨温図が3つ並んでいたりする(p 31)等, 配置や構成が統一されておらず, 比較して考えづらい。 ・章末に学習のまとめと表現のコーナーがあるが, 「意見を交換しよう」の課題の中には, 教科書の内容だけでは表現しにくいものや, 具体的に何について話し合えばよいのか分かりづらいものがある。(p 172, 243など)

<p>帝 国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・節末に「地理的な見方・考え方を働かせて説明しよう」や節のテーマに関わって思考力・表現力・判断力を問う発展的な内容が掲載され、主体的な学びを促している。(p 13, 25, 44など) ・導入では、驚きや疑問のある資料を設定して興味・関心を高め、学習課題につなげている。「確認しよう」「説明しよう」のコーナーを設けて、振り返る活動が行えるよう工夫している。(巻頭5, p 2, 3など) ・章、節の末尾にある「学習を振り返ろう」では、章(節)の問いの答えの説明や地域の特色に対する考察ができる。説明する際に使用する語句も具体的に示されており、考えやすい。(p 13, 184など) ・本文の文字濃度(地の文の字体, 太字の字体)が他者より濃く読みにくい。 ・巻末に用語解説も統計資料もないため、本書だけでは用語についての理解, 学習に必要なデータの検索や比較が難しい。 ・行間に関連する解説マークやページ数などの情報が他者と比べて多く, 本文に集中しづらい。(p 158-159)
<p>日 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全ての節末に, その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載されていて, 生徒の主体的な学びを促している。(p 57, 71, 81など) ・調査結果をまとめて発表する際, 7つの手順(p 119上部)を意識させ, 地図, グラフ, 表, 写真などを入れることで内容を伝えやすくするための例を示している。(p 118-137) ・「地域調査の手法」で取り上げている京都市伏見区は修学旅行で訪れる学校が多いため, 修学旅行の取組と関連付けやすい。 ・本文の文字濃度(地の文の字体, 太字の字体)が他者より濃く読みにくい。 ・単元のまとめのページが穴埋め問題と, 発展的学習としての「アクティビティ」コーナー(p 105など)で構成されているが, 基本事項と発展的な内容とのつながりがあまりない。 ・余白部分が他者に比べて目立つページがある。

中 学 校 社 会 (歴史的分野)

著者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・各章・各節の学習を貫く「探究課題」を詳細かつ明確に示し、さらに1単位時間の学習の「学習課題」が設定され、章の終わりには「探究のステップ」において、まとめる手順も示されている。 ・「地域の歴史を調べよう」の中で、地域の復興と平和への思いで被爆地広島についての調査を紹介している。 ・章ごとに「地域の歴史を調べよう」を設け、資料を活用し地域の歴史を調べる手法などの説明がある。 ・章末ごとに「まとめの活動」を設け、時代の特色をまとめることができる。また、クラゲチャートなど思考ツールを用いた表現方法の工夫が見られる。(例：P60～61)
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・章のはじめに、「学習を始めよう」を設け、当時の写真など掲載し時代の変化に気づかせる工夫が見られる。 ・「歴史の技」を設け、歴史を読み解く技能を高める工夫がある。 ・グループで協力しながら取り組むような、対話的な学習をすすめる課題が他者と比べて少ない。 ・「歴史をさぐる」の中で、平和と共生を願う人々で原爆の子の像を紹介しているが、被爆地広島についての記述が2ページの内4分の1程度である。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・「タイムトラベル」は、その時代の想像図が描かれ、対話的な学習をすすめるための教材となっている。 ・章ごとにまとめで言語活動を使って学習を深めるための手順、段階を3段階のステップに分けて示すことで、学習活動をしやすく工夫している。 ・章の初めのページは、章・節・1単位時間の「学習課題」が1ページ内に掲載してあるので本1時間での課題が分かりにくい。
山川	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇世紀の世界」として、学習する日本の時代と当時の世界の様子を比較して学習できる工夫が見られる。 ・「地域からのアプローチ」を設け、資料等を活用し地域の歴史を調べる手法などの説明がある。 ・各単元末に、「まとめ」を設け、書き込みができるようになっているが、生徒が自ら考える資料や手だては示されていない。 ・他の教科書に比べ字のポイントが小さく、本文が25～26行と文章量が多いページがある。また、資料も文章での資料が多い。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジ歴史」を設け、より深い学習ができるようにしている。 ・それぞれの章のおわりに、その時代の「特色」をまとめる活動の中で、3つのステップに分けて手順やヒントを示している。 ・小単元の最後の「確認」は、学習課題そのままを提示したものがあり、知識・技能を定着させる工夫が少ない。 ・被爆地広島について説明する資料が他者と比べて少ない。

育 鵬 社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 章ごとに「鳥の目で見ると」、「虫の目で見ると」を設け、歴史を広く眺めたり、一つの資料から分かる事柄を見つけだしたりするなど興味・関心を広げるようにしている。 ・ 「歴史のターニングポイント①～⑥」を設けて、各時代の大きなできごとを取り上げて意見を交換する活動を示している。 ・ 第3章第1節「ヨーロッパとの出会い」、第4章第1節「欧米諸国の進出と幕末の危機」の中で、世界史の内容が他者と比べて少なく、世界と日本との関係がつかみにくい。 ・ 「歴史ズームイン」で戦局の悪化と終戦で沖縄戦を説明している（P248～249）が、被爆地広島を説明したものはない。
学 び 舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小単元のタイトルや見出しが生徒の興味を引くように工夫されている。 ・ 「歴史を体験する」では様々な体験学習が紹介され、対話・討論にチャレンジするページもある。 ・ 市民革命、産業革命、ヨーロッパのアジア侵略などの内容が課題別に構成されているため、歴史の流れの中におけるそれぞれの関連性が分かりにくい。（第6章など） ・ 章ごとのまとめでは、「当てはまる語句を選ぶ」方法が中心で、他者と比べて文章でまとめたり意見交換をしたりする活動は少ない。

中 学 校 社 会 (公 民 的 分 野)

発行者	意 見
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 時間ごとに学習課題が設定され、課題解決においては、チェック&トライで基礎的・基本的な内容を確認したうえで、説明をするものとなっている。 ・ 領土について、2 頁を使って歴史的背景や地図、写真、新聞記事等から考えを深める工夫がされている。 ・ 「効率と公正」のような公民的な見方・考え方を働かせ考察する場面（例： p 164）などが設定されるとともに、具体的に働かせる見方・考え方が示されている。 ・ 章ごとに探究課題が具体的に設定され、章末に探究課題の解決を図る流れとなっており、節ごとに探究のステップの問い、見開き 2 頁で 1 時間の学習課題を探究する課題発見・解決学習が進められている。 ・ 「考える」「読み取る」「集める」といった活動が提示され、生徒が主体的に活動できたり、「みんなでチャレンジ」が 21 個設定され、対話的な学びの工夫が図られたりしている。 ・ 写真・グラフ・表等の刷新が図られていて、種類も多い。 ・ 他分野との関連を示すマークとともに、他教科との関連のマークが記され、カリキュラム・マネジメントが意識されている。 ・ 学んだことと実社会を結び付けて考える活動（例：模擬裁判 p 106，投資家になって考えよう p 145）など，社会参画が目指されている。 ・ UDフォントの使用など，特別支援教育の観点からの配慮がなされている。 ・ 資料のタイトルだけでなく，短い説明が添付され，資料に分かりやすいタイトルやラベリングがなされている。 ・ 登場する人物キャラクターが多く，学習に集中しにくい。 ・ 章ごとの「まとめの活動」において，思考ツールを用いて自分の考えをまとめたり，グループで意見を述べ合ったり，社会への提案を行うなど多彩な言語活動が設定されている。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見開き 2 頁の学習課題が示され，解決にあたっては，「確認」で基礎的事項を確認し，「表現」において社会的事象を説明したり，話し合いを行ったりする段階的のものとなっている。 ・ 領土について見開き 2 頁で説明されていたり，シビリアン・コントロールについて他者より詳しく記述されたりしている。 ・ 働かせる見方・考え方が示されているが，具体的な見方・考え方が記されていない。 ・ 章の初めに漫画を用いた導入が設定され，日常生活と結びつく学習課題の設定になっており，章の探究課題の見通しを促している。 ・ 38 か所の「公民の窓」でコラムを紹介したり，「クリップ」によって人々の姿を紹介したりして，興味・関心を広げて社会参画を促している。 ・ 写真やグラフなど豊富である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校，他教科，他分野，SDGsとの関連が示され，系統的・横断的な学習を促す工夫を図っている。 ・導入資料と「LOOK！」の解説文でこの学習へのきっかけをつくり，見開き2頁の内容とつながるよう工夫されている。 ・UDフォントを使用し，色使いが見やすい。 ・「言葉で伝え合おう」が設定され，ディベート（例：p68），シミュレーション（p110），計画立案（p146），プレゼンテーション（p122），レポート（p178）の6つの多様な言語活動が仕組まれている。 ・章ごとのまとめでは，基礎的な事柄をおさえた上で，テーマに基づいた文章によるまとめを行う段階的なものとなっている。 ・章末に章のテーマについての問いを考えまとめるものとなっているが，見開き2頁のまとめにおいては，文章表記させる活動が他者に比べて少ない。
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2頁の学習課題と，説明を中心とした表現の振り返りとなっている。 ・章ごとの振り返りでは，一問一答の解答だけでなく，見方・考え方を働かせる課題がスモールステップで示され，学習内容の定着の工夫がなされている。 ・UDフォントを使用している。 ・領土について見開き2頁で説明されている。 ・「学習の前に」で課題を発見し，見通しを示しながら，スモールステップになったまとめと，次の章へつながるような課題によって主体的な学びとなるよう工夫されている。 ・10テーマからなる「アクティブ公民」（例：p23）などによって，見方・考え方を働かせて思考する深い学びが促されている。 ・小学校や他分野との関連が示されている。 ・実社会とのつながりを意識した25テーマからなる「公民プラス」（例：p4）などによって社会参画を促している。 ・写真や絵が豊富で，配置も工夫されている。 ・学習内容に応じたQRコードが付され，家庭学習においても動画コンテンツなどを見られる工夫がある。 ・章の導入のイラスト中に示された記号や数字が読み取りにくい。他者に比べてルビが多く，行間がせまい。また，章のまとめの文字が小さく見づらい。 ・学習した内容をより深めるために「アクティブ公民」において，「技能をみがく」が設定され，ロールプレイ（例：p24）やディベート（例：p58）などの言語活動が促されている。 ・章末の振り返りにおいて，思考力・判断力・表現力を問うものになっているが，文章記述がやや複雑である。
日 文	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2頁の1時間に，課題とまとめが設定されている。 ・領土について見開き2頁（例：p184-185）で説明するとともに「公民+α」で詳しく記している。 ・「アクティビティ」が38か所設けられ，具体的な見方・考え方を働かせながら理解を深める工夫が見られる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭の見開きにSDGsを紹介し、公民の学習を貫く問いとして示され、脚注に関連を示しながら課題解決を促している。(p15など) ・ 編の導入において、その編でつかむ見方・考え方に関する漫画により、見通しを持たせている。章末には学習の整理とともに、シンキングツールを活用しながら考察・構想し、発表する場が設定されている。 ・ 脚注で小学校、地理・歴史的分野との関連を示す「連携コーナー」が設定されている。 ・ 新聞記事をもとに思考を深め(例:p32)、「明日に向かって」(例:p116)によって社会参画の手がかりが示されている。 ・ イラストや図が見やすく、資料の説明が丁寧になされ、生徒が考えやすい。 ・ 「まちのバリアフリーを探そう」において、教科書に実際の点字が使われている。(p50) ・ 章末には学習の整理とともに、フリーカード法(p33)、ダイヤモンドランキング(p118・207)クラゲチャート(p77)、PMIシート(p211)、ピラミッドチャート(p175)、フィッシュボーンチャート(p121)などのシンキングツールを活用しながら考察・構想し、表現する活動が設定されている。 ・ 見開きごとの学習課題への「確認」の文章表記がやや簡易で分かりにくい。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見開き2頁に課題とまとめが設定されている。 ・ 領土問題を見開き2頁で扱い、国家の成立、人権の確立、憲法の成立など、歴史上の背景が詳しく述べられている。 ・ まとめにあたる問いがなく「ここがポイント」として示されており、生徒が文章記述などで説明するものとなっていない。 ・ 具体的に働かせる見方・考え方が示されていない。 ・ 人権に関する内容は12ページ分、SDGsに関する内容は1ページ分扱われているが、他者に比べて少ない。 ・ 各章の学習課題と各単元の学習課題のつながりが明確に示されておらず捉えにくい。 ・ 「アクティブに深めよう」でお店を出店しよう(例:p162)という課題が設定されている。 ・ 写真やグラフが少なく、本文中に出てこない事項に関する資料が掲載されているページもある。 ・ 他者と比べて文字が大きく見やすい。 ・ 「発展」として、各章にかかわる4つの課題から1つを選択し、400字でまとめる発展的な学習が提示されている。

- ・見開き2頁に学習の課題とまとめが設定されている。
- ・領土問題について4頁分扱っており、歴史的背景・地図・写真・新聞記事が詳しく提示されている。
- ・見開き2頁のまとめにおいて、文章記述で説明するものがやや少なく、話し合うなど活動的で見取りにくいものが多い。
- ・見方・考え方に関しての表記が少なく、意識を持ちにくい。
- ・章の初めに「入り口」として資料から学習課題を発見し、章末に「これから」を設け、見方・考え方を働かせて学習した内容に関する課題を考えることができるよう工夫されている。
- ・SDGsについて巻頭2頁と国際社会のこれからで取り上げている。
- ・「やってみよう」において、新聞に投稿してみよう（例：p85）、裁判を傍聴しよう（例：p97）などが設定され、主体的に社会と関わるような学びを促している。
- ・他分野との関連が見出しの下に記されている。
- ・「やってみよう」というページで課題が設定され、ディベート（例：p101）、ロールプレイ（例：p105）など様々な言語活動が設定されている。
- ・各章末に「学習のまとめ」が1頁置かれ、自分の意見をまとめ、交流するという言語活動を意識した設問が提示されている。
- ・章末の「学習のまとめ」は、思考力・判断力・表現力を問うたり、実社会とのつながりから自分事として考えたりするものがやや少ない。

中 学 校 地 図

発行者	意 見
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する資料がある場合、「ジャンプ」マークが示してあり、複数の資料を関連付けて考えるのに役立つ。(p 6, 20, 22, 43, 44, 48など) ・ 読図のポイントや考察の視点を示したキャラクターの吹き出しを設けて、地図を活用した言語活動を促している。(p 5-8, 12, 23, 25, 56, 65, 78, 83など) ・ 北アメリカ州と南アメリカ州, アフリカ州とアジア州との境界が世界地図で読み取りにくい。(両社の p 1-3 を比較) ・ 色が他者よりも全体的に薄い。(東 p 15-16, 帝 p 9-10 を比較) ・ ヨーロッパ州, アフリカ州, 北アメリカ州の基本図に同緯度の日本列島が掲載されておらず, 南アメリカ州での正反対の位置の日本列島, オセアニア州での赤道をはさんだ反対側の日本列島も掲載されていないため, 緯度のイメージをつかみにくい。(p 51, 61, 70など) ・ 地図以外の資料が多く記載されており, 地図帳としては活用しづらい。(p 134など) ・ 鳥瞰図が掲載されている州と, 掲載されていない州がある。(例えば東 p 62と帝 p 43, 東 p 81と帝 p 75を比較) オセアニア州の鳥瞰図がない。
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロシアとヨーロッパ州との境界だけでなく, 北アメリカ州と南アメリカ州, アフリカ州とアジア州との境界が世界地図で鮮明に描かれている。(両社の p 1-3 を比較) ・ 色が鮮明で地図が分かりやすい。(東 p 15-16, 帝 p 9-10を比較) ・ ページタイトル横に, 学習を支援する二次元コードが設けられ, 専用サイトにアクセスして地図帳を補完する資料を見られるようになっている。「地図活用」の解答を確認できたり, クイズ感覚で学習をすすめたりできる。(p 8, 19, 25, 41, 43, 45など) ・ ヨーロッパ州, アフリカ州, 北アメリカ州の基本図に同緯度の日本列島が掲載されている。(p 41, 45, 57, 60) 南アメリカ州の基本図には, 正反対の位置の日本列島が, オセアニア州の基本図には赤道をはさんだ反対側の日本列島が掲載されており, イメージをつかみやすい。(p 58, 67, 73) ・ 世界各州では一般図に合わせてイラスト付きの鳥瞰図があり, 記述されている情報量が他者より豊富である。(例えば帝 p 25-26と東 p 31-32を比較) ・ 地図の表記(色, 活字, 境界線など)が工夫されており, 読み取りやすい。(例えば帝 p 1-3と東 p 1-3を比較) ・ 「地図活用をしてみよう」のコーナーを多数設けて, 地図を活用した言語活動を促している。(p 6, 8, 14, 16, 18, 20, 22など) ・ アジア州, アフリカ州, ヨーロッパ州の順に構成されており, 地理の教科書の順と異なる。

中 学 校 数 学

著者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・「例」と似た問題に印がしてあり、「例」を理解しているか確かめることができる。 ・箱ひげ図とヒストグラムのそれぞれのよさと違いを比較しているページがある。 ・方程式の利用の例題は、代金・過不足・速さ・比例式の4種類。絵、線分図、表を用いて理解を助ける表記になっている。特に速さの問題では、デジタルコンテンツで人が動く様子をみることができ、理解を深めることができる。 ・「深い学びのページ」では、問題発見・解決の過程が具体的な活動で示されており、図や式を使って自分の考えを説明し伝え合う活動とともに、多様な考えを認めたり、共通点や相違点を見つけたりする活動が設定されている。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・「活動」と「例題」が同じ扱い（通し番号）になっている。 ・箱ひげ図のよさについて明記はあるが、ヒストグラムとの違いについて明記されていない。 ・方程式の利用では代金・過不足・速さの3種類。線分図やことばの式、表を用いて理解を助ける表記あり。1, 2問目は考え方に合わせて解く手順が明記。また「プラスワン」として補充問題があり、力に応じた学習もできる。 ・文字式では、考え方を説明する例題や問題の数は、「レポートを書こう」の課題を含めて6問あり、思考力、表現力を大切にした展開となっている。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・「Q」の隣にポイントとなる見方・考え方が明示してあり、以後の学習で大切なことが分かるような工夫がある。 ・箱ひげ図からデータの傾向を読み取る際の導入でドットプロットとの比較があり、理解を深めることができる。 ・証明の進め方について分かりやすく説明があり、1つの問題を例にして、図を使って根拠となることがらが分かりやすくまとめてあり、手順がつかみやすい。 ・文字式では、考え方を説明する例題や問題のうち、穴埋めの形式で2つの考え方の説明のモデルが示されている箇所があり、生徒の理解を助けている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・箱ひげ図のよさについて説明はあるが、箱ひげ図から読み取りにくいことに対する説明がない。 ・方程式の定義から解法のまとめまで例題11問（比例式が別で例題2問）で導いている。移項など解法の重要な部分は別枠を設け、色をつけて意識させる工夫あり。 ・「学習のプロセスページ」では、問題発見・解決のプロセスが具体的な活動で示されている。その中に、自分の考えを説明したり、話し合ったり、振り返ったりする場面が設定されている。 ・順序として難易度が高い例題が出されている箇所がある。また、例題から問に難易度が急に上がる箇所がある。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の構成が左見開きから「みんなで学ぼう編」が、右見開き（教科書の巻末）から「自分から学ぼう編」が始まる構成となっている。「自分から学ぼう編」では、「力をつけよう」と「学びをいかそう」の2種類が設定されるなど習熟度に応じて学び直すことができるが、形状が使いにくい。 ・箱ひげ図のよさと、箱ひげ図では読み取れないことをそれぞれ明記している。 ・方程式の利用では年齢・代金・過不足・速さ・比例式の5種類。絵や線分図、ことばの式、表を用いて理解を助ける表記になっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを説明したり、他者の考え方を聞いて自分の考え方と比較したりする場面に「説明しよう」や「話しあおう」の場面が設定されている。また、学習の理解の定着を図る場面では「まとめよう」の場面が設定されている。
数研	<ul style="list-style-type: none"> ・探究ノートは、探究的な課題が設定され対話文等を通して複数の単元の振り返りや発展を行うことができるが、分冊となっているため使いにくい。 ・箱ひげ図のよさの明記はあるが、箱ひげ図では読み取れない分布の形があることについての明記がない。 ・方程式の利用では、代金・過不足・速さの3種類。絵、線分図、表、生徒の会話を用いて理解を助ける表記。1問目では式に合わせて手順が明記。また、速さの問題ではデジタルコンテンツ内で人の動きが確認できる。 ・証明の手順について見通しを筋道たてて丁寧にまとめ、根拠となる事柄をどのように使うか具体的に明示するとともに、レイアウトや色使いも工夫され、理解が深まるようにしている。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の例」や「大切な見方・考え方」が明示しており、数学用語を使った説明の仕方や学習内容の要点が分かりやすい。 ・箱ひげ図とヒストグラムのそれぞれのよさと違いを比較しているページがある。 ・証明の手順がチャート図で示され、根拠となることがらについて、簡潔明瞭で分かりやすいが、具体的ではないため（三角形の合同条件のどれがいえるか等）、補足説明が必要。 ・「学び合おう」では、問題解決型の過程が提示されており、図や式を使って自分の考えを説明し伝え合う活動とともに、多様な考えを認めたり、共通点や相違点を見つけたりする活動が設定されている。

中 学 校 理 科

発行者	意 見
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・(◎とくに評価できる点) つまづきやすい内容には、「例題・練習・確認」や丁寧な解説場面「考え方」が設けてある。公式や重要事項は「ここがポイント」欄で強調してある。 ※「考え方」が示されている場面（1～3年生合わせて14箇所） ・基礎技能は本文と区別した囲み「基礎操作」で示してあり、図や写真を使って手順や注意事項について記述されている。 ・(◎) 探究のフローチャートで探究の過程が明確化されており、「課題に対する自分の考えは?」「調べ方を考えよう」「考察しよう」など探究の過程に直結した言語活動が配置されている。 ・(◎) 「?課題」の結論は、「!課題に対する結論を表現しよう」で、自分の言葉でまとめることが重視されている。 ・(◎) 探究の意識づけが高い構成になっており（表紙から探究内容になっている）、用紙サイズもA4サイズのため実験方法などの流れが見やすい。 ・(◎) 各ページ左下に探究のどの過程を学習しているかが分かるようになっている。 ・(◎) 写真とモデル図の構造を工夫し、粒子概念を理解しやすい工夫がされている。 ・グラフの読み取り方の手順を示したり、図中の色や模様を変えたりすることで読み取りやすい工夫がされている。 ・課題に対する結論を表現しようという項目があり、課題に対して自分の考えをまとめる活動を明示している。（1年44，2年51，3年54） ・考えを広げ深める対話的な学びの工夫として、発表しよう 説明しよう 話し合おう と、話し合って発表したり、自分の理解度をアウトプットしたりする活動が明示されている。
大 日 本	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験でよく用いられる器具の基本的な操作が「基本操作」として紹介されており、図や写真で解説されている。動画コンテンツ（ウェブサイトアクセスして使用）によって使い方の解説を見ることができる。 ・(◎) 巻頭の「理科の学習の進め方」のページで、教科書の流れに沿って、理科の探究の過程をつかめるようにしている。巻末の「探究の進め方」のページで、探究の過程を具体的な課題をもとに示している。 ・単元末資料「Science Press」で学習に関わる科学の話題が紹介されている。 ・「つながる」で他教科との関連が示されている。 ・実験の前後での変化の違いを分かりやすく写真で示している。 ・結果の例として、結果から分かることを箇条書きで例示してあるが、学習の中で、考察等を行う場面での、対話的な活動の明示がされていない。

学 図	<ul style="list-style-type: none"> ・解法が示されている場面が、他者と比較して少ない。 ・プログラムによる解説は、低学力層の生徒の実態には合わない部分があると思われる。 ・(◎)「理科のトリセツ」にて理科を学ぶ意味や学ぶ方法などを丁寧に解説している。 ・(◎) 単元のはじめや探究のはじめに生徒が解決したくなるような導入場面が設けてある。また、章のはじめには「Can-Do List」で、付きたい力が明確にされ、章末には「何ができるようになったか」で章のはじめの目標が達成できたかをふりかえることができる。 ・発展的な学習の取り扱い数について学年に応じて増えていく等の工夫がない。 (1年12, 2年11, 3年13) ・実験・観察にかかわる基本操作等を図やイラストで分かりやすく説明している。 ・章の初めに学びのあしあとという図や文章で説明する活動が明示してあり、単元後にも同じ活動をして、自己の理解度や成長を比べられる工夫がある。 ・学習の中での対話的な学びにつながる活動は特に明示されていない。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ・例題で解き方が示される場面の数が他者と比較して少ない。(1～3学年合わせて6箇所) ・「まなびリンク」では、学習内容と関連する外部ページにアクセスできる専用ページが開かれ、教科書では紹介されない発展的なものも閲覧できるが、紹介されている内容は発展的なもので、「理解を深める」目的で利用できるものは少ない。 ・(◎) 生徒が日常で目にする機会が多いものと関連させてあり、学習の初めの「疑問」から「課題」の設定にいたる課程を身近なものや経験を通して思考を深められるようにしている。 ・写真や図が少なかったり、大きさが小さ過ぎたり、いつのものか明確でないものがある。 ・「ブリッジ算数」で小学校算数との関連が示されている。 ・各章の導入では、「これまでの学習」と「学習前の私」を明記し、学習意欲につながるような工夫をしている。また、章末では「要点のチェック」と「学習後の私」を示し、学習前後での変化をみることができるようになっている。 ・各学習の最後に、学習後の私として、学習した事柄を用いて課題を説明する活動が明示されているものの、学習の中で、考察等を行う場面での対話的な活動の明示がされていない。 ・課題の提示後に話し合おうという項目が示されている。既習の事柄を用いて話し合う場面が設定され、生徒同士の話合のイラストも提示されており、対話的な学びの工夫がなされている。

啓 林 館	<ul style="list-style-type: none"> ・観察実験の手順が視覚的に分かりにくいものがある。 ・生徒が勘違いしやすい基本事項は、「なるほど」のコーナーで正しく理解できるように情報を示してある。 ・章の導入や「学習のまとめ」などで、QRコードからリンクするコンテンツで、復習問題や学習に関連する映像を利用できる。 ・(◎) 巻頭に「探究の過程」を「課題の把握」→「課題の追究」→「課題の解決」のサイクルで示している。 ・(◎) 単元導入には、課題意識を持って単元の学習には入れるように「学習の見通し」→「学ぶ前にトライ!」を設けている。また、同じ問いかけを、単元末に「学んだ後にリトライ!」として設け、習得したことを確認し、学びの深まりを実感できるようにしている。 ・巻末に理科でよく使う「算数・数学との関連」が示されている。 ・図や写真の表記が分かりにくいものがある。また、図に関わる色の使い方が統一されていないため、科学的な意味づけが不明瞭な部分がある。 ・考えてみようという項目で、予想や仮説を立てたり、結果を考察する活動が明示されたりしており、「分類」「比較」「作図」など考察方法もいくつかの方法が示されている。(1年29, 2年33, 3年39) ・話し合ってみようという項目では、生徒同士の対話を意識した活動が明示されている。
-------------	---

中 学 校 音 楽 (一 般)

発行者	意 見
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・曲ごとに、大きなねらいと具体的な視点が示してあり、見通しをもった学びが実現できる。 ・共通事項の説明が楽譜と共に説明されており分かりやすい。 ・コード表から音を選んで行う創作が取り掛かりやすく、また、伴奏を変えることでイメージの広がりを求めることができる。 ・「生活と社会の中の音楽」のページ（全冊）など、音楽で生活を豊かにするという基本方針を意識したページが増えている。 ・教科書の巻頭で、著名なアーティストの、音楽の世界へ誘うコメントを掲載している。 ・吹き出しなどによる生徒の思考の例を明示している。 ・「ふるさと」は、全校合唱として、3年間を見通して扱えるよう工夫されている。 ・「特集」のページを各冊に設け、生活や社会の中の音について考える機会を設定している。 ・音楽教育とSDGsとのつながりについて記述がある。 ・一つ一つの写真が、他者に比べるとやや小さい。 ・国歌において、学年ごとに違う写真を使った国際的儀礼の記述がある。 ・表紙のイラストが生徒の関心に沿ったものになっている。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ・目次が大きく3つ“うたう”（歌唱），“つくる”（創作），“きく”（鑑賞）に分類されており、領域のバランスがとれた構成となっている。 ・目次で共通事項について示してあるが、各曲のページに示されていないため確認が難しい。 ・言葉によるリズム表現は取り組みやすいが次の段階の創作へはつながりが難しい。 ・「私たちのくらしと音楽」（2・3上・下）のページなど、生活の中での音楽の役割を示している。 ・教科書の巻頭の風景が美しい。共通教材の歌唱曲の風景や、鑑賞曲の作曲者直筆の楽譜が示されており、各曲の表現・鑑賞の世界への導入に活用したくなる口絵写真である。 ・書き込みページは、余白が十分あってメモしやすい。 ・吹き出しなどにより、生徒の思考を促している。 ・「発展」のページを各冊に設け、「音」について科学的に示している。 ・「SDGs」に関わる記述はないが、全冊にわたって、「SDGsとESDに関する校閲」が行われている。 ・人物などの写真を大きく掲載しているので、演奏場面が分かりやすい。 ・国歌のページが3冊とも統一されている。

中 学 校 音 楽 (器 楽 合 奏)

発行者	意見
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を深めるポイントが分かりやすく提示されている。 ・ アルトリコーダーのみのアンサンブル曲が少なく，ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの二重奏を扱う楽曲が多い。 ・ 個人でも合奏でも楽しめるよう主体的に学習を進めやすい工夫がある。 ・ 各楽器がバランスよく取り上げられている。 ・ 打楽器に関して，たくさんの楽器の奏法を丁寧に示している。 ・ 練習曲数が他者と比べるとやや少ない。 ・ ギターのダイアグラム（コード表）が，イラストで押さえる弦が分かりやすく示されている。 ・ 資料に楽器図鑑のページがあり，様々な授業場面で使える。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見開きごとに「学びのねらい」が左上に表示してあるので目標が分かりやすい。 ・ 篠笛の奏法の説明が視覚的に分かりやすく，イメージしやすい。また，練習曲も篠笛らしい曲が多い。 ・ 楽器を演奏している写真が多く，楽器のイメージが捉えやすい。 ・ 学びのねらいをスタート，まとめの曲をゴールと設定し，見開きごとに学習を見通せる構成になっている。 ・ たくさんの曲数から選んで指導することができる。 ・ アルトリコーダー，箏，篠笛による創作の教材を取り入れている。 ・ それぞれの楽器を演奏する手元のアップの写真を掲載して，奏法の説明を丁寧に行っている。 ・ ギターのダイアグラム（コード表）が，押さえた写真で示されている。

中 学 校 美 術

発者	意 見
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・「図画工作から美術へ」と「学びの地図」で小学校の図画工作科との関連を考えながら、学習の質的变化に順応できるように配慮されている。 ・日本の伝統文化に関する題材も多く、金箔と墨という対照的な表現から時代背景を感じさせるなどの工夫が見られた。 ・特徴的な作品を比較的大きな図版で提示し全体的に見やすいが、変化に乏しくインパクトに欠ける感じがある。また、QRコードの何が見ることができかの指示が明確ではない。 ・題材等の数は多く、魅力のあるものや自己と社会と美術の関わりを考える題材、表現と鑑賞の学習の関連や系統性とカリキュラムマネジメントを考えた構成になっているが、説明や文字が多く、それぞれの教科書に設定したテーマも分かりづらい。 ・折り込みページの活用や大型図版を掲載し関心・意欲を高める工夫があり、生活や社会の中の優れた美術や文化が多彩に掲載されている。 ・作者の言葉が充実している。構想や制作、工夫、活動・活用風景の提示があり、作者のとなりや思いが分かる。また、発想や構想の方法や学習の進め方も示されている。 ・鑑賞のきっかけとなる発問や問いかけを明確にするため、色枠「学習のポイント」をレイアウトに用いている。発想のヒントとなるアイディアスケッチやワークシートの事例もある。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・「美術って何だろう？」で、小学校からの流れが整理されている。特徴的な作品を取り上げながら幅広い表現と鑑賞を通して真理を求める態度の大切さに気づかせる工夫がある。 ・書き込んで鑑賞（最後の晚餐）したり、比べて鑑賞（神奈川沖浪裏・星月夜）したりすることで理解を深める工夫がある。 ・全体的にすっきりとした構成。地色を変えての囲んだ記事などレイアウトの工夫で見やすい。QRコードでの指示も明確で動画や参考作品、制作工程、作品解説などが見られる。 ・一つの題材の中で「表現」「鑑賞」を一体的に学べるような構成となっており、学習の流れが分かりやすい。 ・トレーシングペーパーの綴じ込みや比較鑑賞、本物に近い風合いの紙質など関心を高め、作品理解を深める工夫があるが、写真のサイズが全体的に小さい。 ・生徒や作家の作品の制作意図が作者の言葉や生徒の実際の文字で載っている。「みんなの工夫」として中学生の制作の様子を詳しく紹介している。 ・話し合いを促す記述が多く、どの題材も最初に鑑賞が入るため自然に言語活動が活発になりやすい。「話し合ってみ方や考え方を広げる」という項目がある。

日 文	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学校美術の世界へようこそ」では、各学年の作品や活動を掲載することで小学校から中学校3年間の内容が見通せるようになっている。 ・立体的に紙面を立ち上げたり、色の再現性にこだわったりするなど、実感的な理解ができる工夫がある。 ・作品のコメント（作者や编者）が多く、思いや創作の意図は分かりやすく、探究的な学習への対応もできると思われるが、全体的には情報量が多く、読みづらい。QRコードでの指示が明確でなく、立体作品を360°見られるものが中心で数は少ない。 ・題材については、生徒の発達段階や系統性に配慮し設定され、3冊で16ページの増量やQRコンテンツとの連動も図られているが、3冊とも同じ「この教科書で学ぶ皆さんへ」という、教科書の使い方が載っており、説明や文字も多く必要性を感じない。目次も9ページ目というところで活用しづらい。 ・鑑賞学習が重視され、原寸大の作品や図版の提示の仕方が効果的で、関心を高め、学習意欲を喚起し、作品理解を深める工夫がなされている。 ・作家や作者の構想段階、制作活動風景、活用風景の提示がある。また、生徒作品のアイデアスケッチを提示し、生徒が学びやすくしている。 ・独立して行う鑑賞以外の題材は表現・鑑賞となっている。指導の流れを工夫すれば、作品の制作過程で鑑賞＝話し合い活動を取り入れた活動をすることができる。
--------	--

中 学 校 保 健 体 育

発行者	意 見
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・「活用する」では、実生活で起こりうる問題解決的な課題が設定されていると同時に仲間との思考を深める活動の場面が設けられている。 ・教科書の記述が丁寧で、すべての単元が「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」で構成されており見通しがもちやすい。 ・グラフや資料を分析するような問題や、グループでの話し合いやロールプレイをさせるような問題もあり、言語活動を促す工夫が見られる。 ・3学年の保健の内容の配列が、学習指導要領の順になっていない。 ・1時間の内容の中で「学習課題」において考えさせる部分はあるものの導入のためだけであって、実生活への活用まで繋げることが難しい。
大 日 本	<ul style="list-style-type: none"> ・「トピックス」の切り口がよく資料のグラフや表、図が多く準備され、新しいデータがあつて理解しやすくなっている。 ・自分の考えをまとめたり、話し合ったりする場面が各単元で設定されている。「学びを活かそう」においても、言語活動を促す工夫が見られる。 ・導入の「つかもう」では、他者の教科書と比べて図やイラストがなく、生徒の興味・関心を引き出すような工夫があまり見られない。 ・図やグラフが大きく表現されているのに対して本文の説明が少なくバランスが取れていない。 ・「活用して深めよう」で、考えをまとめさせる工夫があるが、図など提示内容が少なく考えをまとめさせるくふうがされていない。
大 修 館	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の「課題をつかむ」では、興味・関心を引き出せるよう、自身の実体験を振り返る課題を多く設定するなどの工夫が見られる。 ・項目（または重要語）ごとにまとめられているが、一項目ごとに内容を見ると、説明が多く生徒が集中して読み切れるかどうか不安がある。 ・問題解決的な活動が他者の教科書と比べて少なく、「課題をつかむ」と「学習のまとめ」の間に、生徒に考えさせるようになっていない。 ・本文と資料の配置がページごとに異なっている。本文と資料の配置に統一性がない。 ・「学習のまとめ」や「章のまとめ」において、自分の考えをまとめたり、深めさせたりする工夫が少ない。
学 研	<ul style="list-style-type: none"> ・「この教科書の使い方」として、「学習の目標」→「課題をつかむ」→「考える・調べる」→「まとめる・深める」という流れが確立されており、「目標」「めあて」が明確で学びの見通しをもたせやすくなっている。 ・学習の流れの中で、身近な課題について、生徒が自ら学び、自ら考えることができるような工夫が見られる。 ・生徒の発達段階を踏まえた身近な問題や自他の問題が取り組めるように、学習指導要領に示された内容をもとに学年別に構成されている。 ・「まとめる・深める」において、自分の考えをまとめたり、話し合ったりする場面が十分に設定されており、人に伝える能力の育成を図っている。 ・グラフや資料、写真を見ながら分析するような問題があり、言語活動を促す工夫が見られる。

中 学 校 技 術 ・ 家 庭 (技 術 分 野)

発行者	意 見
東 書	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点①・小单元ごとに「目標」がページ上部に明記してある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の終わりに評価問題があり，3観点に基づいて振り返ることができ，総合的に理解度がチェックできる。 ・単元の最初のページにこの編で学ぶことや小学校や他教科とのつながりが具体的に表記されている。 <p>視点②・「技術の匠」というコラムを設け，伝統的な技術や現代の技術等について解説している。(P67, 79, 81, 82 など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的変遷に関する年表がなく，体系的にとらえにくい。 <p>視点③・「資料」というコラムの中に「環境」という内容が2か所ある。(P134, 194)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の終わりに環境的側面から最適化について考えさせる記載がある。
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点①・ガイダンスにおいて技術を学ぶ意義，学び方について丁寧に記載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスにおいて技術の見方，考え方，技術の最適化について丁寧に説明があり，技術を学ぶ本質的な意義について気づかせるよう工夫されている。 ・ページ下に「技術の工夫」を設け，関連する用語について説明している。 <p>視点②・技術を評価する際，社会的側面，環境的側面，経済的側面や安全性から考察できるようにになっている。</p> <p>視点③・問題解決の視点から実習例が示されており，主体的な学習となるよう工夫されている。</p>
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点①・ガイダンスの内容が質・量ともに充実している。(12ページ分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「B生物育成の技術」において，問題解決の視点から，実習例が8例示されているが，作物の栽培技術に限定されており，動物の飼育技術，水産生物の栽培技術，森林の育成技術からの例示はない。 <p>視点②・発展的な内容については取り上げられていない。</p>
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点①・「リンク」「安全」「環境」など17種類のマークで表示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真が鮮明で鮮やかである。 ・背表紙に名前が記入できるようになっており，実用的である。
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点①・学習のまとめにおいて，「確かめよう」「深めよう」「生活に生かそう」という問いかけにより，文章で記述するようになっている。</p> <p>視点②・「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」において，自分で考えたり，調査したり，お互いに話し合い説明したりする項目が設定されている。</p>

教 図	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点①・小单元ごとに「めあて」がページ上部に明記してある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の終わりに「まとめ」があり，3観点に基づいて振り返ることができ，総合的に理解度がチェックできる。 ・小学校・他教科との関連が校種と教科のみで具体的ではない。 <p>視点②・「伝統文化」というコラムにおいて伝統的な技術について紹介している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変遷に関する年表がなく，体系的にとらえにくい。 <p>視点③・ガイダンスに「環境問題を保全する技術」として記述がある。(P6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の終わりに環境的側面から最適化について考えさせる記載がある。
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点①・ガイダンスにおいて技術を学ぶ意義，学び方についての説明がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスにおいて技術の見方，考え方，技術の最適化について説明がなく，技術を学ぶ本質的な意義についての記載が不十分である。 ・興味・関心を高める豆知識等の記載はない。 <p>視点②・技術を評価する際，社会的側面，環境的側面，経済的側面から考察できない。</p> <p>視点③・単に製作，実習の視点から実習例が示されており，問題解決の視点がないため，主体的な学習となりにくい。</p>
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点①・ガイダンスの内容が質・量とも他者に比べ不十分である。(4ページ分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「B生物育成の技術」において，作物の栽培技術に関する題材例が3例，栽培例が3例示されているが，問題解決的な視点はない。動物の飼育技術，水産生物の栽培技術，森林の育成技術からの例示はない。 <p>視点②・マークがあり，「Cエネルギー変換の技術」において，発光ダイオードの原理についての説明がある。(P127)</p>
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点①・「安全」「環境」「発展」など10種類のマークで表示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活字が大きく，見やすく配慮されている。重要語句は青色で表示。 ・写真の内容が重複していたり，写真が鮮明でない所がある。
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点①・学習のまとめの「知識・技能」においては，穴埋め式の問題となっており，言語活動の充実は図れない。</p> <p>視点②・「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」において，自分で考えたり，調査したり，お互いに話し合い説明したりする項目が設定されていない。</p>

開 隆 堂	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点①・小单元ごとにねらいが「学習目標」と明記されページ右上に記されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の終わりと单元ごとに振り返りがあり，ABCで評価するだけでなく，具体的な記述が求められ，形成的にも総括的にも理解度がチェックできる。 ・単元の最初のページにこの編で学ぶことや小学校や他教科とのつながりが具体的に表記されている。 <p>視点②・「探究」というコラムにおいて現代の技術等について紹介し，技術への関心を高める工夫がされている。(P 9, 25, 93など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の初めに年表や写真を活用して技術の歴史の変遷が書かれている。(P 20～21, 94～95, 140～141, 194～195) <p>視点③・環境や資源・エネルギーに配慮を要する内容については，「環境」に関するマークを記載し，関心を高めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の終わりに環境的側面から最適化について考えさせる記載がある。
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点①・ガイダンスにおいて技術を学ぶ意義，学び方について丁寧に記載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスにおいて技術の見方，考え方，技術の最適化について丁寧に説明があり，技術を学ぶ本質的な意義について気づかせるよう工夫されている。 ・各ページ下に「豆知識」を設け，作業のポイント等を示している。 <p>視点②・技術を評価する際，社会的側面，環境的側面，経済的側面から考察できるようになっている。</p> <p>視点③・問題解決の視点から実習例が示されており，主体的な学習となるよう工夫されている。</p>
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点①・ガイダンスの内容が質・量ともに充実している。(10ページ分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「B生物育成の技術」において，問題解決の流れに基づき，作物の栽培技術，動物の飼育技術，水産生物の栽培技術，森林の育成技術の4分野から8例示されている。 <p>視点②・マークがあり，「Cエネルギー変換の技術」において，実習例として発展的な内容であるICを用いた「音声増幅器」を取り上げ，学習を深めている。(P 187)</p>
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点①・「学習の目標」「探究」「発展」など18種類のマークで表示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用紙の白色度が高く，写真，イラスト，活字等が鮮明である。 ・軽量化が図られ，生徒の登下校における負担に配慮されている。
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点①・学習のまとめの「技術のしくみ，工夫」において，ABCの3段階評価に加え，「～説明しよう」という問いかけにより，文章で記述するようになっている。さらに，「学びを深めよう」では，資料を提示し，これからの技術の在り方について考えをまとめ記述するよう問いが設定されている。</p> <p>視点②・「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」において，自分で考えたり，調査したり，お互いに話し合い説明したりする項目が設定されている。</p>

中 学 校 技 術 ・ 家 庭 (家 庭 分 野)

発行者	意 見
東 書	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点①【ねらいの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目標」が分かりやすい箇条書きで、目標として意識させやすく、発展としての生活への工夫まで考えさせることのできる内容である。適切なキーワードが提示してあり、各題材の基礎的な内容を押さえることができる。(例 p 214) <p>視点②【家族・家庭に関する項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「加齢による体の変化」では、体の衰えについて、各部位ごとに短い文章で箇条書きにしてあり、高齢者の身体の変化や、生活のしづらさについて、伝わりやすい。(p 259) <p>視点③【消費生活・環境に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットによる三者間契約と二者間契約が両方図示されているので比較しやすい。(p 190)
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点①【興味・関心を高めるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の写真の色合いがきれいで食欲をそそる。(例 p 84) ・消費者トラブルの事例が4コマ漫画で示されており、興味をひきやすい。(p 195) <p>視点②【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「演じて考えようーロールプレイングー」では、3つの設定場面から主体的にロールプレイングを体験することにより家族や高齢者の立場や気持ちを理解することができる。(p 262～263) ・献立作りが主菜→主食→副菜→汁物の順に考えるように示してあるので、生活に活用しやすい。(p 40) <p>視点③【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(選択) 生活の課題と実践の具体例が12テーマ示してあり、学習の流れが分かりやすく提示されている。また、対話的、協働的な学習を展開するための、思考ツールの紹介や、具体的な実践例の紹介により、学びを深め、課題解決を家庭だけではなく、社会につなげていくという展開の工夫がある。(p 267～283)
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点①【題材の配列と分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BCAの順に配列されている。Cの領域が2編に分けられており、整理しやすい編集がなされている。 ・ガイダンスの内容として、これまでの家庭生活や小学校家庭科の学習を振り返ったり、家庭分野の学習のねらいや概要に触れたり、中学校3学年間の学習の見通しをもたせるという全ての内容が網羅されている。(p 4～17) <p>視点②【発展的な学習の扱い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の内容との関わりが薄く、情報量も少ないため、発展的な学習として扱いにくい。(p 115, p 167, p 209)

	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点①【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者の体の特徴」における「高齢者とのかかわり方」では、実際の介助の仕方を、資料の図によって理解しやすい。(p 259) ・「私たちの成長と家族・地域」に掲載されているDマークを読み取ると、幼児の一日の生活が動画で見ることができる。日常生活の中で幼児とのかかわりが少ない生徒にとって、視覚によりイメージしやすい内容となっている。(p 213) <p>視点②【視覚支援のなされた表現・表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容や学習活動、各コーナーにマークが使われており、ページの展開も整理され、理解しやすい。 ・包丁の持ち方、切り方、食材の切り方等が絵や写真を使って、丁寧に説明してある。ページの下に定規がついているので、おおよそのイメージが付きやすい。(p 58～59) ・栄養素の種類と働きが矢印で示してあるので、主な働きと二次的な働きが区別しやすい。(p 27)
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点①【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児との関りを生活に生かす」では、ふれあい体験学習を終えての話し合いの視点や、まとめ方の例が示してある。(p 248～249) <p>視点②【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「活動」というコーナーにおいて、自主的に調べてまとめる学習ができる工夫がされている。 ・「学習のまとめ」の「学習を振り返ろう」では、ねらいに即した内容で生徒がチェックできるようになっているが、できた、大体できた、努力したいでの回答等と、まとめや確認にならない項目が多い。「学習をしたことをまとめよう」では題材の一部をとり上げてあるために、題材全体の基礎・基本の確認にはならない。(例 p 264)
教 図	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点①【ねらいの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」が箇条書きで表してあり、ポイントをつかみやすい。キーワードは押さえるべき基礎的な語句というよりも、キーワードから自分の生活に結び付けて考えることができるようになっている。(例 p 14) <p>視点②【家族・家庭に関する項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の人々と、協力・協働しよう」では、家族や地域の高齢者との関りについて展開されている。「高齢者の一般的な身体の特徴の例」が6項目あげられており、高齢者の身体の特徴について理解しやすい内容となっている。(p 29～31) <p>視点③【消費生活・環境に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットによる三者間契約の図はあるが、二者間契約の図が示されていないので比較がしにくい。(p 252)

	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点①【興味・関心を高めるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の写真が付け合わせの材料が少なく、色合いが悪い。(例 p 132) ・消費者トラブルの事例が4つ示されているが、文字が多く、イメージがわきにくい。(P 257) <p>視点②【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家族の役を演じ、家族とのかかわり方について考えてみよう」では、事例が2つ挙げているが、特殊な家庭の例であり、自分の家庭を振り返ると捉えることが難しい。(p 22～23) ・献立作りが主食→主菜→副菜→その他の順に考えるように示してあるので、生活に活かしにくい。(p 99) <p>視点③【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活の課題と実践」について、学習の流れについて提示されている。(p 282～291) ・実践例については、文字の提示が多く、実際のまとめがないため、生徒にとっては、理解したり、イメージをしたりすることが困難である。(p 282～291) ・生活の課題と実践の具体例は8例のテーマが示されているが、まとめの方法や発表がイメージしづらく、授業に生かしにくい。(p 282～291)
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点①【題材の配列と分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A B Cの順に配列されている。BとCの分野は1編にまとめられている。ガイダンスの次にA領域が1編として配列されている為、授業を展開しやすい配列である。 ・ガイダンスの内容が少なく、「自立度チェック」だけでは小学校での学習内容の振り返りをすることが難しい。また、中学校での学習内容の見通しをたてにくい。(p 8～11) <p>視点②【発展的な学習の扱い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界の衣食住」では、衣と食と住でつなげて考えることができ、興味も持ちやすく、国際的な視野を広げることができる内容となっている。(p 236～p 237)
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点①【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「衣服の手入れをしよう」では、p 179「試してみよう」のしみ抜きの方法の図や、p 180～181の具体的な衣服の写真掲載など、理解を深める資料の工夫がある。 <p>視点②【視覚支援のなされた表現・表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p 16「図2 家庭生活を支える施設やサービス、活動の例」p 17「資料 男女共同参画社会を目指して」のグラフ、p 28「図6 年齢別人口の割合」など、見ただけでイメージできるような資料の工夫がされている。 ・食品の切り方が細かく丁寧に写真で示されているが、包丁の持ち方、基本的な切り方の記載がない。(p 116～117) ・栄養素の種類と働きが矢印で示してあるので主な働きと二次的な働きが区別しやすい。(p 81)

	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点①【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児の観察、ふれ合い」では、「観察してみよう」において、観察時の視点、「幼児とふれ合った後に」では、「図14 ふれ合い後のまとめ」ではまとめる時の視点が示されている。また、まとめ例が掲載されている。(p60～61) <p>視点②【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「発表してみよう」等のコーナーがあり、それぞれ学びが深まる視点で活動をすることができるような工夫がされている。 ・「学習のふり返し」では、観点別に題材ごとの要点がきちんと押さえてあり、各観点にふさわしいふり返し項目が提示してある。(例 p34)
	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点①【ねらいの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習の目標」の一文が長く、要点をつかみにくい。(例 p18) <p>視点②【家族・家庭に関する項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域に暮らす高齢者」では、高齢者を取り巻く社会の状況については記述しているが、高齢者の身体の特徴は記述していないために、家庭の中でどのように関わっていったらよいのか考えたり発展させたりすることが難しい。(p60～63) <p>視点③【消費生活・環境に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットによる三者間契約の図はあるが、二者間契約の図が示されていないので比較がしにくい。(p239)
開隆堂	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点①【興味・関心を高めるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の写真の色合いが少し暗い。(例 p129) ・消費者トラブルの事例が4つ示されているが、すぐ下に解説がついているため、考えることができない。(p237) <p>視点②【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中学生にとっての家族」において、ロールプレイングが設定してある。ここでの設定例が、具体的であり、思考を深めることができる内容となっている。また、実生活につなげやすい設定となっている。(p23) ・献立作りが主食→主菜→副菜→その他の順に考えるように示してあるので、生活に活かしにくい。(p146) <p>視点③【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活の課題と実践」では、「食品の表示をよく読まないだけ！」や「祖父母が喜ぶ食事づくり」など、中学生が実際に調べてみたくなったり、おもしろいと興味を持ちやすい課題提示がなされたりしている。(p266～p277) ・生活の課題と実践の具体例が12テーマ示されており、まとめの方法も記載があるが、1つ1つの具体例には示されておらず、実践に生かしにくい。(p266～277)

	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点①【題材の配列と分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ABCの順に配列されている。BとCの分野は1編にまとめられている。ガイダンスの次にA領域が1編として配列されている為、授業を展開しやすい配列である。 ・ガイダンスでは、小学校での学習内容と中学校での学習内容のつながりを把握しにくい。(p 4~11) <p>視点②【発展的な学習の扱い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファストファッションの裏側で」などは、持続可能な社会をふまえた課題として思考を深める内容となっている。(p 203)
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点①【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の「参考」では、学習内容をさらに深め、意欲をもたせるための資料が載せられている。 <p>視点②【視覚支援のなされた表現・表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QRコードを読み取ると、作品製作や、幼児の生活などの動画をみることができ、視覚による理解を進めることができる。 ・食品の切り方の写真が小さく、分かりにくい。(p 111) ・五大栄養素の表の主な働きが言葉で表してあるので、主な働きと二次的な働きが区別しにくい。(p 83)
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点①【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のまとめ」は、内容が部分的であり、学習のまとめとして使いにくい。(例 p 67) ・「ふれあい体験は幼児からの贈り物」では、壁新聞やレポートでのまとめ方について示されている。書き込む内容について例示されている。(p 51) <p>視点②【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話し合ってみよう」「生活に生かそう」というコーナーにおいて、日常生活の中で起こりがちな課題設定や既習事項をもとに考えることができる内容についての話し合い活動ができるような工夫がされている。 ・「ふり返り」では、題材のねらいに沿っていない抽象的なものが多く、基礎的・基本的な内容を押さえにくい。(例 p 41)

中 学 校 英 語

発行者	意 見
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学年は、各「Unit (中単元)」冒頭に目標 (GOAL) が提示されており、2 学年からは、「Unit」の目標 (GOAL) が「題材」と「活動」に分けた形で提示されている。題材については「...について考える」、活動については「...することができる」の形で示してある。 「Unit」の最後に同じ文 (CHECK) があり、振り返りができるようになっている。また、3 学年では、CAN-DO リストを評価するための関連教材が、4 技能 5 領域に対してそれぞれ 5～11 箇所、ステージ (各学期) ごとに示されており生徒が評価しやすくなっている。 ・ 単元途中の「Mini Activity」、単元末の「Unit Activity」、学期末の「Stage Activity」と、段階をおって言語活動ができるよう設定されている。「Stage Activity」では知識や技能を総合的に扱って、発信に結び付ける活動をするが、テーマは身近なものが多く、生徒の興味を引く内容である。 ・ 言語活動の分量が多く、生徒にとって負担になり全て消化しきれなくなる恐れがある。 ・ be 動詞の過去形・過去進行形を 1 学年で学習する。「Unit 11」で be 動詞の過去形のキーセンテンスが疑問文と応答文なので分かりづらい生徒がいるかもしれない。また、be 動詞の was は小学校で既習なので、基本文にあげられていないが、was, were のどちらもセットで扱われている方が教えやすい。 ・ 読み物教材として、「落語」、「ロンドン観光」、「ブロードウェイのミュージカル」、「日本の食文化」、「国境を越えた友情」、「次世代へ」、「八田與一」と、各学年の段階を考慮しつつ、日本と世界の文化や歴史を通して、生徒が深く考えることができる題材が用意されている。 ・ 小学校からの接続は、1 学年の「Unit 1」～「Unit 5」まで続く。各「Unit」の「Enjoy Communication」では小学校で学習した重要文型が短い対話に盛り込まれて振り返りができるようになっている。小学校外国語科の教科書も「New Horizon」を使用しており、小学校で学んだ内容がスムーズに中学校に接続される。 ・ 1 社のみ A4 版を採用し、文字の大きさも違和感がない。文字は手書き文字を想定した小学校と同じ書体で見やすく、読みやすい。 ・ 文法を説明する「Grammar for Communication」では、主語、動詞等が色分けをして示しており、内容の表記・レイアウトが生徒にとって分かりやすい。 ・ 巻末資料に工夫が見られる。「Word Room」はジャンル別に補充単語・表現をまとめてあり、充実している。 ・ 3 学年最後の「Stage Activity」は、「Let's Have a Mini Debate」であり「主張とその理由を明確にしなが、ディベートをすることができる」が GOAL で、ディベートの手順が示してある。取り上げられている論題は、「Japan is a good country to live in.」で、3 年間の学習の総まとめとなるレベルの高い言語活動が設定されている。

- 各「PROGRAM（中単元）」の冒頭に「...する」の形で目標（Goal）が3つ示されている。振り返りはセクション（小単元）ごとに、3つのいずれかについてのチェック欄があるが、「□Goal 1」の表記のみで、文字が小さい。また、CAN-DOリストがオリジナル（「できるようになったこと」リスト）で項目が細かすぎる。
- 文法事項は各「PROGRAM」の最後に「英語のしくみ」でまとめてある。複数の文法事項を同時にまとめてある場合（間接疑問文とSVOO（節）など）もあり、比較して理解する機会にはならない。
- 「PROGRAM」で習った表現を使った活動で、例文もあるが、即興で対話をするにはやや難しいものもある。また「PROGRAM」の題材ともう少し関連付けた内容であってほしい。
- 統合的なパフォーマンス活動を行う「Our Project」が学期に1回設定されている。身近なテーマで考えやすい。4ページにわたって考える手順が示されているので取り組みやすい。
- 「PROGRAM」の中に重要な基本文あるいは重要表現という項目が分かりにくい配列になっていて、文法事項がそれぞれの「PROGRAM」の最後にまとめてあるのもう一度内容に戻って重要表現を確認する必要がある。
- 読み物教材として、「ばばあちゃんの物語」、「マララ・ユスフザイさんのノーベル平和賞受賞」、「The Ig Nobel Prize」、「Library Lion」など、生徒に身近な登場人物、話題になった実在の人物、読むと興味がわいてくるような内容の教材を扱っており、幅広い学習をすることができる。
- 新しい表現は各単元のはじめに登場人物の会話の場面（「Scenes」）のマンガ形式で紹介しており、各ページに基本文としての提示はない。「Scenes」のマンガ形式による導入は指導者にとっては扱いづらい。
- 文法事項を扱う「英語のしくみ」は、説明に語の役割ごとに色分けがされるなど、内容の表記・レイアウトが生徒にとって分かりやすい。
- 巻末資料は豊富で工夫が見られるが、アクションカード等には実際には使用しづらい。
- 3学年最後の「Our Project」は、「あなたの町を世界にPRしよう」であり、3つの「Goal」が設定されている。3つ目の「Goal」は、「ディスカッションで、理由とともに積極的に意見を述べる」となっているが、台本を考えて地元のをPRするため「演じ合ってみましょう」「外国の人になったつもりでPRを聞き、質問しましょう」となっており活動の難しさを感じる。

- ・各「Lesson (中単元)」の冒頭に「Lesson」の構成 (GET POINT / USE) があり、1 学年「Lesson 4」からは、「USE」の部分に活動内容が「...しよう」の形で示されている。文法事項(GET POINT)、本文内容理解(USE READ)、活動(USE Write / Speak)が提示されているが、単元全体の目標が何か分かりにくく文字も小さい。また、3 学年ではCAN-DOリストの評価するための関連教材が、4 技能 5 領域に対して 3～11で「書く」ことの教材が 3 回しかなく、少ない。
- ・ほぼ全ての「Lesson」中に 4 技能 5 領域の全活動が設定してあり、どの領域か分かるようにアイコンで明記してある。3 年間でアイコンが明記されている数は、「聞く」74個、「話す (発表)」32個、「話す (やりとり)」53個、「読む」33個、「書く」63個、計255個であり、「Lesson」の中で、4 技能 5 領域に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る工夫がされているが、活動数が十分とは言えない。
- ・習得の段階で話したり書いたりする活動がやや難しい。もう少しヒントやステップを踏んだものがよい。
- ・領域統合型の活動 (「Project」) が学期に 1 回設定されている。自分に身近なテーマよりもアイデアなどを出し合い、提案するものが多く設定されている。テーマが他者と傾向が違い興味深い内容である。
- ・「Get」→「USE/Read/Speak/Write」→「Take Action!」→「まとめ」という流れでよい構成だと思うが、分量が多いので多くの生徒には負担になるかもしれない。
- ・3 学年になると読み物教材として「佐々木禎子さんの物語」、「キング牧師のスピーチ」、「ゾルバの約束」、「賢者の贈り物」、「面ファスナー」など心温まる内容のものや現代の技術が生かされている商品の話など興味深いものが多い。「ハゲワシと少女」や「平和のひととき」など、3 学年に読んで考えさせたい内容である。
- ・入門期の紙面に、挿絵の大きさに対して文字の大きさが小さく、違和感があるページがあり、本文に集中しづらくなっている。
- ・「GET Plus」の活動で使用する単語集が、巻末ではなく、それぞれの活動の場面に絵とともに挿入してあり、使いやすい。
- ・巻末の「単語の意味」のコーナーなど、文字が小さく詰めて書いてあるので読みづらいページがある。
- ・3 学年最後の「Project」は、「ディスカッションをしよう」で、わかば市が所有する空き地の利用について話し合った後、「あなたの住んでいる地域に置き換えて、ディスカッションしよう」となっており、地域の人や施設について議論するようになっている。総合的な学習の時間の内容によっては、関連して学習を進めることができる。

教
出

- 1 学年「Lesson 3」までは、各「Lesson (中単元)」の冒頭に、「...しよう」の形で目標 (Goal) が提示されている。1 学年「Lesson 4」以降、各「Lesson」の冒頭に目標は示されていない。「Part (小単元)」ごとに「...しよう」の形で示されているが、単元全体の目標になっていない。「Lesson」の最後に振り返りとして、「...できる」の項目に各自チェックできるようになっているが、小単元の目標と振り返りの項目は同じではない。
- ほぼ全ての「Lesson」中に 4 技能 5 領域の全活動が設定してあり、どの領域か分かるようにアイコンで明記してある。3 年間でアイコンが明記されている数は、「聞く」137個、「話す (発表)」42個、「話す (やりとり)」38個、「読む」153個、「書く」46個、計416個である。「Lesson」の中で、4 技能 5 領域に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る工夫がされているが、「話す (やりとり)」が 3 年間で38回しかなく、数に偏りがある。
- 「Project」では、知識や技能を総合的・統合的に活用し、生徒自身の思考・判断を加えた課題設定をしている。取り組みやすいテーマで例文や表現するための手順も示されているが、ヒントとなる表現や情報が少なく他者のものと比べるとややもの足りない。
- 3 学年の読み物教材は 6 話ある。大人が読むと興味深い内容だが、中学生が読むには難しい上、なじみが薄く興味が持ちにくい。
- 「Springboard 1～3」は小学校で学んだ英語で「聞く」活動を行い、音から文字への接続が工夫されているが、「Springboard 4」はすごろくの中の英文を読んで理解する内容になっている。音を聞いて文字認識を行い、その後、英文を読んで理解することは生徒にとってハードルが高い。また「Lesson」に入ると小学校の学習コーナーはないので、小学校からの接続を図った内容とは言い難い。
- レイアウトは、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているので、学習の流れを安心して見通すことができる。挿絵もあるが、本文に集中しやすいレイアウトである。
- 巻末に CAN-DOリストがついているなど、学習の達成度を自分で振り返る機会を大切にしており、巻末資料に工夫が見られる。絵カードは、使用場面がはっきりしており使いやすい。
- 「Activities Plus」は、活用カードで応答例等を隠し、自学自習で活用につなげる工夫があるが、例文の全てが隠れるのでそのままでは使用しづらい。また、ページ全体に赤身がかかり、目に刺激が強い。
- 3 学年最後の「Project」は、「Goal ディベートをしよう！～Boxed Lunches vs. School Lunches～」が論題となっており、生徒の身近なテーマを扱っている。ディベートの手順が示されている。

- 各「Unit（中単元）」の冒頭に4技能の内2技能についての目標（Goal）が「...できる」の形で示されている。最後にも同じ文があり，ふり返りができるようになっていて，巻末のCAN-DOリストとも連動している。
- 文法事項は関連のあるものをまとめて「Active Grammar」で示している。「文の形」で文を色分け+構造化している。「場面と意味」，「比べてみよう」で場面や使い方，内容の違いなどを考えさせている。「Active Grammar」の設定数は，1学年6回（7ページ），2学年9回（9ページ），3学年2回（4ページ），計17回（20ページ）である。新学習指導要領により中学校で学ぶべき文法事項となった「仮定法」については，P. 93の基本文に説明があるのみで，まとめたページがない。
- 「Unit」ごとに目標（Goal）の活動が設定されている。興味を引く内容が多いが，グループでアイデアを出し合ったり，意見をまとめたり，情報収集したりする必要があるものもあり中身が濃いので，時間配分が難しい。
- 「You Can Do It!」で学んだことを生かして複数の技能を使った活動ができる。興味を引くテーマが多いが，資料となる英文の分量も多くモデル文などヒントが少ない。またグループで活動した場合，英語が苦手な生徒がどのくらい課題解決にかかわれるか懸念される。
- 1学年「Unit7・8」から2学年「Unit1」にかけて，一般動詞の過去形→be動詞の過去形→現在進行形→過去形→過去進行形という文法配列である。ストーリーの展開上この配列になっていると思うが，時制はまとまっている方が分かりやすい。
- 「わたしは何?」，「ライオンとネズミ」，「羽生結弦選手」，「絵文字」，「河本聿美くんの日記より」，「ロボット」，「世界を変える」などの読み物があり，どの内容も興味深く読むことができ，視覚的な工夫，内容のおもしろさ，過去の事実，現代の課題と工夫されている。
- レイアウトは，紙面上の要素のデザインや配置を統一しているが，イラストの配色が薄くなっているため余計に気になり，本文に集中しづらくなっている。
- 「Active Grammar」のページでは，主語・動詞で色分けをしてある点については，分かりやすく表示してあるが，全体として文字が小さく見づらい。
- 巻末資料に工夫が見られる。「Story Retelling」や「Let's Talk」は復習や帯学習に活用できる。
- 3学年2つ目の「You Can Do It!」は，「学校に必要なものを考えて意見を伝えよう」という生徒に身近なテーマで，“We need school uniforms.”と“We need nap time.”という二つのトピックを扱っている。

- 各「Unit (中単元)」の冒頭に「Part (小単元)」ごとの目標が「...できる」の形で示されている。各小単元には「...しよう」の形で示されているが、単元毎の振り返りは設定されていない。
- ほぼ全ての「Unit」中に4技能5領域の全活動が設定してあり、どの領域か分かるようにアイコンで明記してある。3年間でアイコンが明記されている数は、「聞く」97個、「話す(発表)」102個、「話す(やりとり)」129個、「読む」96個、「書く」96個、計520個であり、「Unit」の中で、4技能5領域に繰り返し取り組み、バランスよく学習内容の定着を図る工夫がされている。
- 各「Unit」の「Use」ではペアでの対話練習を通して、ターゲットの文を習得できる。また、単元末の「Express yourself」では、習った表現を使って自分のことについて表現するが、例文もあり自分のことについて表現しやすい内容になっている。
- 学期末には「Project」で4技能5領域を統合する活動を設定している。身近なテーマが多く、また「Tool Box」の語句を見て書くことができるので、他者と比べると易しい内容だが、アイデアや意見を引き出すなど問題解決をする傾向がやや弱い。
- 各「Unit」は、ひとつの題材において「Get Ready(Read+Listen)」→「Practice」→「Use」→「Express Yourself」→「More Information」と興味深く学習できるように構成されている。
- 小学校からの接続は、「Let's Start1~7」として14ページにわたる。「聞く」を1~7のすべてで復習し「聞く」→「読む」→「書く」→「発表」とステップアップしていく構成で丁寧に学習できるが、時間がかかりすぎる。「Unit」では、「読む」→「聞く」という構成で、小学校時の学習構成と違うところが小学校からの学習を意識していると言い難い。
- レイアウトは、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているので、学習の流れを見通すことができ、ユニバーサルデザインの文字も読みやすい。
- 多くのページの背景やマークに様々な濃い色が使われており、落ち着かない。
- 付録は豊富である。巻末にCAN-DOリストがついており、自分で学習の振り返りができるが、関連箇所の表記がなく、いつ使用するか分かりにくい。
- 3学年「Further Study①」は、「ディスカッションをしよう」で、「あるテーマについて、自分の立場を決めて意見交換することができる」が目標となっている。論題は「制服は必要かどうか」で、生徒の身近なテーマを扱っている。

中 学 校 道 徳

発行者	意 見
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き4ページに「道徳の授業はこんな時間に」を設定し、1つの教材をもとに学習の進め方の例や話し合いの手引き（話し合いの時の約束、司会カード）を示し、実際に考え話し合える教材がある。 ・各教材のタイトルの前に、同じ視点で色分けした視点マークとともにみんなで考える観点を示している。 ・発問の1問目は、教材に関する質問で登場人物の行動の理由や心情を問う発問で、2問目は自分について振り返ったり、登場人物への自我関与を促したりして自分との関わりで教材の道徳的価値を考えるものがある。 ・写真・図・絵を効果的に用いて考えやすくするための工夫がある。思考ツールに書き込んだり、手作り新聞の実物提示、問題場面を絵や漫画で提示していたり、生徒が自分事として考えやすくなるような工夫がある。 ・いじめ問題、生命尊重については連続した2、3の教材のはじめに1ページ設け、自分の考えや話し合いで出た意見、更にそこから考えたことなどを記入するページが設けてある。 ・いじめ（1年4、2年3、3年3）3つの教材で構成されたいじめ問題対応ユニット「いじめのない世界へ」を設け、4～5月に配置。巻末に「人権・いじめ」をテーマとした教材を示している。 ・情報モラル（各学年1）、命に関わるもの（各学年3）、郷土の内容（1年2、2年1、3年1） ・各学年に2か所、役割演技を主体とした活動「アクション！」を設定し、「考え、議論する」ための発問を示している。 ・巻末に「学期のまとめ」3枚、ホワイトボード用シート、心情円があり、学んだことを振り返ることができたり、気持ちを表現しやすくなったりしている。 ・役割演技、思考ツールはあるが、「生徒が価値のある考えをもっている」前提で設定されている教材が多い。例えば「自分を信じて生きるとは…」では「人間の弱さ・みにくさ」「人間の強さ・気高さ」を記入させる表があるがみにくさや気高さがどのようなものか、抽象的で分かりにくい発問が多く、思考ツールや書き込みの表が多くても実際の生徒が書けなくては意味がない。 ・巻末にはテーマごとの振り返りはあるが、教材名を示しただけになっている。

<p>教 出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページに「道徳科で学びを深めるために」を設定し、考えたり話し合ったりするときの視点や注意することについて簡潔に示し、授業の深め方を理解させようとしており、学習のイメージがつかみやすい。 ・各教材のタイトルの前に、同じ視点で色分けした4つの視点を示している。 ・巻末に「教材一覧」があり、内容項目・主題名ごとに教材名を示している。 ・タイトルの下に主題名としては提示されていないが、導入として考えて欲しいことを投げかけている。 ・「やってみよう」(1, 2年: 2か所, 3年: 1か所)で役割演技をしたときに思ったり考えたりしたことを書けるようになっており、動作化させることで主体的な学びにつながり、理解を深める手助けとなる。 ・いじめを暴力的なコミュニケーションという視点で呼び掛けており、生徒自身の問題解決につながりやすい。 ・学年に応じて、現代的な課題・身近な問題・日常生活でありがちな問題・生徒が陥りそうな悩み、また、一見生徒からは遠いような教材など、豊富な資料が使われている。 ・B5版、ページ数(1年218, 2年202, 3年202)、4つの視点(1年A8B8C12D7, 2年A7B7C16D5, 3年A6B5C15D9) 教材は、本編35, 最初から順に進める。 ・いじめ(1年4, 2年4, 3年3)いじめを直接的に扱った教材や、いじめを許さない心の教育を間接的に支えるための教材、コラムを組み合わせユニットを設け、体系的に配置している。巻頭に「いじめ・人権」をテーマとした教材を示している。 ・情報モラルは(1年2, 2年1, 3年1)、命に関わるもの(1年3, 2年2, 3年3)、郷土の内容(1年1, 2年1, 3年1)がある。 ・学習に役立つ情報をウェブサイトで見つけることができる学びリンクが48か所掲載されている。 ・いじめや差別について深く考えたり、安全や防災について考える資料等が8ページ掲載されている。 ・巻末に学期のまとめを書くページと、次年度つながる思いを書くページが自己の変容が分かりやすい。 ・教材の終わりに「道徳の学びを記録しよう」として記録欄が設けてあるが一言でしか記入できない。 ・教材の終わりに「学びの道しるべ」として考える視点や話し合う視点が3問示されており、その内容は、生徒がやや予想しやすい問いで、表向きの答えを考えるよりも先に書いてしまう懸念がある。 ・コラムのような頁では豊富な資料を用いているが、情報量が多すぎて、焦点化されていない。
----------------	--

光 村	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページに「道徳の授業を始めよう」を設定し4つの内容項目を示し、学び方では「他者」との対話と「自分」との対話についての視点をふまえて簡潔に示している。また「本書で学ぶ皆さんへ」を設定し、道徳の時間の流れを紹介し、学習のイメージがつかみやすい。 ・価値に迫る発問が示され、授業の流れを価値に向けて進めやすい。 ・「見方を変えて」という場面では、ほかの人の立場になって考えさせる場面が見られ、「深めたいむ」ではより思考を深めようと、同じ項目であるが別の角度から切り込むという工夫がある。 ・有名人や漫画を効果的に使ったり、視点が異なる様子を視覚的に表現したりする教材もあり、生徒が考えを深めやすい。 ・B5版、ページ数（1年197、2年205、3年205）、4つの視点（1年A8 B10 C14 D9、2年A11 B8 C13 D9、3年A10 B9 C14 D9）*複数内容項目 教材は、本編31+付録4、最初から順に進める。 ・いじめ（1年[7]、2年[11]、3年[8]）*複数内容項目）複数の教材から成るユニット「いじめを許さない心について考える」を設け、学年の前半に配置している。いじめについて考えることができる教材の後には「深めたいむ」を設けている。いじめ問題について考えられる教材が多い。 ・情報モラル（各学年1）、命に関わるもの（各学年3）、郷土の内容（1年2、2年1、3年1） ・「人と人との関係づくり」「共生」「環境」「国際理解」という4つのテーマのコラム（広げよう：5ページ）が掲載されている。 ・前の時間に学んだことを、活動を通して、さらに深めていくことができる教材（深めたいむ：6ページ）が掲載されている。 ・紙の色が暖かく、イラスト等の色合いも落ち着いており、フォントも読みやすく生徒が教材に集中しやすい工夫がされている。 ・各学年とも1回目の授業で道徳の授業の意義と対話の仕方を学んでから、教材に入るよう構成されている。 ・自分やグループの考えを記入する欄を設け利用できる教材がある。 1年p52, 54, 147, 2年p60, 133, 2年p11, 154-159 ・グラフや数値を掲載し、根拠を示して考えることができる教材がある。 1年p102, 2年p58, 3年p94-95 ・教材の終わりに「考えよう」「つなげよう」「見方を変えて」と自らの考えを深める視点が示してある。 ・巻末に毎時間の記録を書くページがある。併せて、1年間の思いを記述するページもあり、変容が分かりやすい。 ・各教材の題名の前に、形と色で判別できる視点マークで内容項目を示し、その下に価値項目が小さく示されている。生徒が決まりきった考えとなってしまう。 ・3学年が長い読み物教材が多く、生徒によっては議論したり問題解決的に学ぶことになりにくい。
--------	---

日 文	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の見開き 2 ページに「道徳科で学ぶこと」を設定し、4つの内容項目を示している。また、「道徳科での学び方」を設定し、授業の流れや学びをより深めるための手立てを示している。 ・巻頭の見開き 2 ページで「この教科書で学ぶテーマ」として 11 のテーマに分けて教材名をその教材の写真やイラストと共に示している。 ・巻頭の目次のページの後に「この教科書で学ぶテーマ」があり、その中で、『いじめ』と向き合う」と「よりよい社会と私たち」というテーマを□で囲い、重要なテーマであることを示している。 ・巻末に教材一覧があり、内容項目順に内容項目とその教材名、主題が色分けした上で示されている。 ・巻末に学習内容と他教科の関わりがまとめてあるので、関連が分かりやすい。 ・各教材のタイトルバーの上に、小さく主題が示されている。 ・教材の終わりに 2 問示され、「考えてみよう」で中心発問を、「自分に+1（プラスワン）」で自分との関わりについての問いがある。 ・作品⇔ロールプレイ⇔思考を深めるというステップが示されていて自分の意見等を考えやすい。 ・別冊「道徳ノート」がある。教材別に記述ができる。 ・「道徳ノート」では、「友達の意見や話し合いをメモしよう」という欄も設けられ、多面的・多角的な見方につながる。 ・学習内容の理解を助けるコラム（参考：5 ページ）、生き方のヒントや応援メッセージのコラム（私の生き方：4 ページ）が掲載されている。 ・学習内容の理解を助けるコラム（参考：5 ページ）、生き方のヒントや応援メッセージのコラム（私の生き方：4 ページ）が掲載されている。 ・学習内容を他教科や活動とつなげ、考えや視野を広げるコラム（プラットホーム：14 ページ）が掲載されている。 ・別冊の「道徳ノート」は記入方法が同じなので、学習のまとめを書きやすい。 ・「参考」と「プラットホーム」のページが情報量が多い。
--------	---

学 研	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の最後に「クローズアップ」を設定し、教材の道徳的価値について深く考えるための発問（教材の内容に関わる問いまたは自分に対する問い）を示し、自分の考えを書く欄を設けている。また、生命尊重やいじめ防止につながる取組（メンタルトレーニング、アンガーマネジメント等）を示している。さらに、「クローズアップ」による客観的なデータや思考を広める工夫がある。 ・ユニット学習として同じ内容項目の異なる教材を続けて設定しているので、より価値理解を深めることができる。 ・「深めよう」（各学年6～8ずつ）を設定し、話し合いや役割演技等を通して自分の考えを広げる発問が示されている。 ・教材の終わりに、「考えよう」を2つ示し、それは中心発問となりうるもので教材の内容に関わる問いと自分に対する問いが含まれており、登場人物への自我関与を促し、生き方について考えきっかけとなり、自分との関わりで教材の道徳的価値を考えるものになっている。 ・いじめ（1年4，2年4，3年6）いじめ防止につながる教材を選定するとともに、いじめ防止につながる特設ページ「クローズアッププラス」を設けている。巻頭において「いじめをなくすために」をテーマとした教材を示している。 ・読み物教材が比較的短く、読解が苦手な生徒の助けとなるように絵やデータ、資料などを組み合わせている。また、思考ツールが効果的に用いられているので考えをまとめやすい。 ・「クローズアップ」の工夫が秀逸。①「問題意識をもてるようなデータの表示」を示しているので、例えば「スマホの使い方」「他国と比べた日本の学生の未来への期待感」など、生徒にとって興味深く、自分事として考えるきっかけになるような比較的新しい数値が分かりやすく示されている。②「心に響く言葉」の選び方がよい。押しつけがましくない名言が厳選され、大きな字で示されている。③図や絵を効果的に用いて考えやすくするための工夫がある。思考ツールに書き込んだり、手作り新聞の実物提示、問題場面を絵や漫画で提示していたり、生徒が自分事として考えやすくなるような工夫がある。 ・クローズアップの「ネットがないと生きていけない？」は、ネット依存について考えさせる問題で、自分のこととして考えやすい教材である。 ・見開き2ページに「道徳で学ぶこと・考えること」を設定し、人間としてよりよく生きるために考える視点を示している。また、「考えを深める四つのステップ」を設け、授業の流れを示しており、学習の仕方や流れのポイントがあり、生徒が教材から問いをみつけ、向き合うことを促している。 ・目次見開き2ページで、「よりよく生きるための22の鍵」として、4つの視点に分類した項目ごとに色分けと共に主題ごとの教材名を4つの視点マークで示している。 ・目次に教科書に使われているマークを載せているが、項目が多くて分かりにくい。
--------	--

廣
あ
か
つ
き

- ・別冊「中学生の道徳ノート」は、教材に対するワークブック的なものではなく各主題を詳しく解説する文章やそれに関する話が各1ページ文章表記され、学習の記録がまとめてワークブック後半に設けており、スペースも大きすぎない。
- ・見開き2ページで「道徳の時間とは」とそれぞれの発達段階に応じた内容の文章で道徳の時間に対する考えや心構えを示してある。使ってあるポイントとなる言葉にルビがふっており、理解しやすい。
- ・「考える」「話し合う」の中に「考えを広げる・深める」を設けてあり、特に別冊「中学生の道徳ノート」においては、自分のことを振り返る資料が示してある。
- ・教材の最後の「考える・話し合う」に学習の手掛かりとして、「～について考える」という何を考えるのかという方向性が明示されている。抽象的な思考が苦手な生徒にとって手助けとなる。
- ・いじめ（1年2，2年4，3年4）いじめを直接的に扱った教材とともに、教材の学びを深める「thinking」を設けている。「いじめ」の様々な内容項目の学習と関連させながら考えさせる特集ページ「いじめを許さない 私たちの心」を設けている。
- ・情報モラルは1（1年1：各学年に特設ページ），命に関わるもの（各学年3），郷土の内容（各学年1）
- ・教材の最後に関連する偉人の言葉（偉人の言葉：35個）が掲載されている。
- ・別冊の「中学生の道徳ノート」には毎時間の学習の記録が記載できるようになっている。
- ・別冊の「中学生の道徳ノート」には、年度当初の思いを書く欄があり、数値資料なども掲載されている。
- ・名作は多いが、現代的な課題を考える際の工夫が足りない。
- ・別冊の「中学生の道徳ノート」では自分の振り返りはできるが、交流などを通して考えや意見を深めるような工夫がない。
- ・巻頭・巻末を含め、全体的にイラスト・写真が少なく、文字が多いため、場面や状況などイメージしにくい。
- ・目次は教材の順序のみ、各教材の表題が小さい。内容項目が分かりにくい。

<p>日 科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き 2 ページに 4 つの視点ごとに内容項目を示している。また、多様な考えを知るための 6 つの方法を示している。 ・ 1 ページを使って教科書の使い方を 5 点示すとともに、自分の好きなことや好きな言葉等、6 項目について書く欄を設けている。 ・ 主題名の明記はないが、教材文のタイトル上部のナンバーに A B C D の色分けの区別がある。 ・教科書の構成が A B C D の順にまとまって掲載されており、1 ページ分の間紙（あいし）がある。 ・教材文の終わりに「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」を設定し、How や Why の問いかけが 3 つずつ用意されている。 ・問題解決的な学習ができるよう、教材文の終わりに「考えよう、話し合ってみよう　そして、深めよう」のコーナーを設けている。 ・「礼儀はなぜ必要なのか」（B 礼儀）において 3 つの場面ごとに礼儀正しい振る舞いと無礼な振る舞いについて具体的な場面をもとに考える活動を仕組むことができる。 ・「書いてみよう」「話してみよう」「もっと知りたい」「届けたい言葉」「込められた思い」などのコラムがあり、より一層自分の考えを広げたり深めたりできる。 ・教材の終わりの「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」のコーナーに、話し合いを促す発問が示されており、各自の考えを交流することができるようになっている。 ・巻末に 1 年間の成長を振り返るページを設けている。 ・巻末に、3 年間の道徳について振り返るページを設けているが、現場にそのニーズがあるかどうか分からない。 ・教材の配列が、内容項目順になっている。 ・どの話が「いじめ」をテーマにした教材が分かりにくい。お話の終わりにある「話し合ってみよう」をみて、何について考えるのか分かる。
----------------	---